

## ガバナー運営基本方針

「雪、月、花の時、最も友を思う」

ノーベル文学賞、受賞式での川端康成先生の講演の演題です。

「雪の美しさを見るにつけ、月の美しいのを見るにつけ、花の美しいのを見るにつけ、四季折々の美しさにめぐりあう幸いを得た時には、親しい友を切に思い、この喜びを共にしたい」と願うのが古来、日本人のこころ。

つまり、私達日本人は、感動により人をなつかしみ思いやりを強く誘い出される国民であるということだと思えます。

そのような国民性を持つ日本に、1952年の春、フィリピン・マニラライオンズクラブのスポンサーにより東京ライオンズクラブが誕生いたしました。

敗戦からわずか7年後に誕生した東京ライオンズクラブ。

ここから日本のLionsの歴史がはじまったのは皆さんご存知の通りです。

以来57年、日本のライオンズクラブは、先輩ライオンの日々のご努力により、LCIFへのドネーションにおいては全世界の四分の一を負担するほどの力を持つ組織へと成長し、世界一の奉仕団体であるライオンズクラブ国際協会の中においても、なくてはならない存在となりました。この事も、私達メンバーの誇りです。

しかし、今、私達の所属する330-A地区において、若手のメンバーはもとより、先輩メンバーの方々からも「今のLionsは・・・」と、現状を嘆く声を耳にすることが多くあります。では創成期のLionsは如何なるもので、あったのでしょうか。

半世紀の時間経過の中で、組織やメンバーの心に、どんな変化があったのでしょうか？

戦後の復興途上の日本にあって、広がっていったライオンズクラブは、メンバー数も少なく、またその運用資金も限られたものであったと思えます。

その中で、日本発展の為に、光のあたらぬ人々の為に、日本ライオンズらしい活動と組織を作ってきました。そして高度成長期を迎え大きく発展してまいりました。

言いかえれば、今ある組織は創成期に発展を願い、先輩メンバーが卓越した叡智を尽くしたその結果であると思えます。

しかし、バブル崩壊によりメンバーの減少が始まり、100年に一度と言われる世界的な不況の波が押し寄せる昨今、現在の組織を維持することは、大変難しい状況ではないでしょうか。

そこで私はこの一年を、「原点回帰の年」「足踏みの一年」と位置付けました。

Lions全体の組織はもちろん、今ある一つ一つの組織を批判するのではなく、何故このような組織になったのかという原点を見つめ直し、創設の意義を確認し、熟知した上で、今後のLionsの為に「如何にあるべきか」を探る必要があると考えております。

先人の叡智を知り、現在のメンバー各位のお力を借りて進めて行けば、必ずやその未来は素晴らしいものになると確信しております。

日本人は感動により、人なつかしみ 思いやりを 強く誘い出される国民である。

私達は、日々のライオンズ活動の中で、一人一人が得る感動を、他の人と共に分かち合いたいと思う気持ちが、自然と生まれてきているはずです。

私はその様な経験をする度に、自分の頭の中に親しい友人の顔が浮かんできます。そしてその友人と共にこの感動を分かち合えたらと思います。

その様な経緯から、「自分の大切な友達（人）を仲間にしよう」というテーマは生まれ、「笑顔で作る感謝の奉仕」「仲間意識で元気なクラブをつくろう」をスローガンと決定しました。

そして原点を見つめる為の、以下の5項目の運営基本方針を掲げました。

1. 各クラブの活動を重視したキャビネット運営を第一に心がけ、クラブ三役の方には地区役員との兼務は御遠慮させていただきました。
2. 各クラブとキャビネットとの強い絆を作る為に、リジョンチェアパーソンの方々には、各ゾーンチェアパーソンに丁寧な説明と適切な指導、緊密な連携の出来る方をお願い致しました。
3. キャビネットの委員会は関連部門を集約、14委員会の設置とし、スモールキャビネット構成といたしました。クラブ活性化の為の諮問を行い、クラブ活性化につながる提案を考えていただきます。
4. 次世代のリーダーが育つ環境作りの一環として、可能ならば国際協会認定師を招請し、国際プログラムに則ったリーダーシップセミナーを企画して参ります。聞くだけでは無く、考え、討議し、終了時には本当の仲間が出来るようなセミナーを開催したいと考えております。
5. ガバナー主体のアクティビティは原則行わず、各クラブへの例会訪問や、アクティビティの現場訪問を行い、出来るだけ多くのメンバーの皆様と意見を交換し、アクティビティ現場で一緒に良い汗を流し、素晴らしい活動があれば、他のクラブに紹介し、問題があれば解決方法の助言等をさせていただきます。

以上の5項目がキャビネット運営の基本方針の骨子です。

創成期のメンバーの心と、現在のメンバーの心には、常に同じライオンズマンの血が流れ続けています。私は、創成期の基本理念にたち、時間の経過と共にある慣習や、垣根は見直し、本来あるべきライオンズクラブの姿を模索する一年でありたいと考えております。

今から 28 年前に東洋から初めて国際会長に選出された 村上薫元国際会長は、「樹木でも古い葉を落さなければ、新しい葉が芽生えないように、あるいは、蛇は脱皮を繰り返して成長してゆくように、ものの伝統を維持するには二つの側面がある、ライオニズムのもつ **We Serve** と**相互理解の精神**、さらに国際的な組織であるということ、こうした基本はどんなことがあっても変えてはならないが、同時にライオニズムの現代的解釈と今日的要請を考えて、変えなければいけないことは変えてよいのではないか」と述べられたとお聞きしています。

私は昨年 10 月、12 月、今年 4 月と三度、シカゴの国際協会へ出向き、今期の 330-A 地区の運営方法の概況を説明し、ご理解を得ることができました。国際協会の運営に対する疑問点も数点質問しましたが、とても真摯にお答えして下さい、私の意見も求められ国際協会がとても身近に感じられるようになりました。

「**We Serve 我々は奉仕する**」 この理念を外れない限り、国際協会においても改革の必要性から単一クラブの運営方法に関しても、以前には考えられなかったほど「ゆるやか」になりつつあるのが現状のようです。

この数年会員増強が毎年声高に叫ばれておりますが、メンバーの皆様が所属クラブに対して自信を持ち、運営と奉仕活動に積極的に加わることが出来るようになれば、自ずとメンバーは増えてまいります。

自信を持って自ら前に進んでみてください。それが物の無い時代から先達の方々が営営として築いたライオンズクラブの誇りと品格を取り戻す第一歩だと思います。

畑を耕し、環境を整え、次に育てるべき事柄を見つけることが、メンバーの皆様から与えられた私の仕事であると肝に命じ、次への更なる発展の礎となることをお誓いいたします。330-A 地区メンバーの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の運営基本方針といたします。

最後に

もし貴方が、過去の行いを知りたいと思うなら、  
貴方の現在のありようを鏡に映して御覧なさい。  
もし貴方が、未来を見たいと思うなら  
貴方の現在の行いを鏡に映してごらんください

ありがとうございました。